

## 戦前、戦中、戦後の貨物輸送

宗像郡福岡町 久保 秋太

国鉄に30有余年勤務し、主に門司鉄道局営業部で戦前から戦後の処理をしてきた私は、長年に亘る紆余曲折のプロセスを振り返ると感慨無量である。

昭和12年に勃発した日中戦争が導火線となり、16年末、真珠湾奇襲攻撃を突破口に、各地で善戦が伝えられたのも束の間、連合軍の優秀な武器、兵力、豊富な物資力に遂に屈して早や50年、光陰矢の如しである。

終戦を契機に、世界情勢は著しく変わり、国内は統制経済から自由経済に、軍事大国から経済大国に、エネルギーの主役石炭は石油に、農地改革、財閥解体、改憲など様々な民主主義に変身した。国際間は長年の冷戦時代から対話協調の新秩序創りに前進した。

### 1. 緊迫した戦前

満州事変を契機に世界情勢は一挙に緊迫し、国内は政府の物資動員計画に基づき、一般企業も可及的に軍需産業に切り替えられ、専ら軍事一色の中で人よりもモノを重点的に優先輸送することになった。直轄官庁から軍需工場向けの石炭、鋼材、セメントなどを大量緊急輸送するよう指示されたが、貨車船舶が不足して意の如くならなかった。非常措置として現有貨車船舶の増積、貨車のピストン折返し輸送、車検の繰延べ、荷役力の増強など、あの手この手を使いながらフル回転を図った。1tでも増送して軍需工場に寄与することは国鉄マンの当然の責務と考え努力の結果、所期の目標を完達、表彰された時の歓喜で苦難は一挙に消え去った。

### 2. 開戦後の情況

昭和16年12月真珠湾攻撃で善戦が伝達されると、必勝を期して頑張ろうを合言葉にジュースで乾杯、上司から「現職員は軍属と同じだ。激戦中の兵士の身になって」と激励され不眠不休の日も続いた。

戦争の長期化に伴い、逐次戦況不利が伝えられ本土空襲の兆候が現れたので、家族と水盃を交わして出勤、現業督励に行く時は鉄かぶとと巻脚絆姿、これらの身回り品は納屋で往事を偲んでいる。一方家庭では校区毎に隣保班を結成し、婦女子はモンペ姿でバケツのリレー式の消防訓練、消火機の使い方、穴ぐら堀、避難訓練など忙しい日が続いた。

局の中枢部門は遠賀郡の山腹に引越し、壕内で万一線路寸断された時、直ちに他線に移り替えてできるネットダイヤの作成、現場との通信網の保守その他で穴ぐら勤務が多かった。

モノ不足、特に食糧難は深刻で、白米は銀飯といわれ貴重な食料であった。カネよりもモノが大切で、物々交換も行われた。会議などで出張宿泊する時は配給米を携帯するなど、現世代では全く想像もつかない戦時体制下であった。

戦闘はますます熾烈となり、B29のたびたびの空襲で北九州一帯はほとんど焼野ヶ原となり、吾家も灰塵となったが、幸いに家族は疎開していたので不幸中の幸いであった。道路、線

路は寸断され、列車は時刻無き迂回運転するなど悲惨はその極に達し、状況は筆舌では表現できない。悲哀の続く中で終戦の悲しいニュースを聞き、張り切っていた心身が自失した。無念で言葉を交わす元気もなかった。

戦前、戦中の耐乏生活、物資の緊急輸送、戦火の爪跡、終戦ニュースの衝撃などは体験者でないと実感は湧かないであろう。

### 3. 戦後の対処

敗戦の傷跡は深刻で、何から手をつけてよいか当惑した。荒廃した企業がようやく息吹を取り戻し、鋼材、セメントなどの復旧資材の需要が高まって、貨車の要請や石炭の不足で列車休止寸前の機関区からの緊急要望、駐留軍GHQの物資輸送の指図などが続いたが、貨車不足でこれらの要請に応えられなかった。特にGHQ佐世保基地の指図は至上命令でこの輸送に苦心し神経を消耗した。

### 4. 外国労務者の祖国復帰

中国、台湾、朝鮮などから強制徴用で多数連行され炭坑で重労働した人々は、敗戦で立場が急変し祖国に凱旋する時、日本の仕打ちや恨みが一挙に爆発して対応と輸送に苦慮した。殊に捕虜の輸送に待遇が悪い、手配が遅いなどの苦情が続出した。

### 5. 連合軍の司令は至上命令

戦後の経済復興と客貨の流動変化に伴い、列車時刻を改正する毎に許可を受けねばならなかった。輸送司令部から、再三の改正は進駐軍自体は迷惑しているという苦情に対し、状況を説明して部分的に認可された。必要な物資を移動する場合も事前に許可を受けねばならなかった。

### 6. 引揚者の輸送

外地から着のみ着のまま母国に帰る引揚者の悲哀な姿は涙なしでは見られなかった。客車は満席し疲労困憊して発狂寸前の人も見受けられ、敗戦の生々しさを物語っていた。

戦時体制下で、このように挺身した事は一生の思い出になり、人生の生き甲斐として幸である。50年を回顧すると悲喜こもごも、走馬燈のように脳裏を駆けめぐっている。

戦後半世紀を迎えた今日、長期的不況の中経済大国と称えられている吾国は、豊かな楽しい生活を送っているであろうか。諸物価、住宅（狭くて高い）、地価などは他の先進国に較べ著しい割高、道路、下水道、公園などの社会資本の基盤整備も立遅れている。日米貿易摩擦、円高、痛ましい東京サリン事件、戦後最悪の阪神大震災など内憂外患が山積している。50年は大切な節目、本年を新たな出発点として「温故知新」をモットーに県民一人ひとりが、マルチメディア社会に順応できるよう、全知全能を傾注して福岡を雄県にふさわしいモデル県にしたいものである。